

= 1 D a y s =

第 1 4 回総会 議案

2023年7月2日（日）

会場：浦和コミセン

1 D a y s スローガン

みんなで、一日を一日以上に充実した日にしよう！

ロシアがウクライナ侵攻して1年5ヶ月が経ち、戦争は長期化し犠牲者が広がり続けています。問題を武力では解決できないことを物語っています。

これまで日本国憲法に基づく専守防衛の政策を大転換する「敵基地攻撃能力の保有」という先制攻撃を可能とする軍備拡大政策に、政府は突き進もうとしています。戦争はけっして起こしてはいけません。スキー協が所属する新スポーツ連盟のスローガンは「スポーツは平和とともに」であり、憲法に基づく平和のもとで、国民の権利としてスポーツを楽しむことをスローガンにしています。

原子力発電所の永続化、マイナンバーの健康保険証一体化、日本に住む外国人の人権を危険にする入管法改定、軍事拡大のための財源確保法など、政府は多くの国民が心配する声を聞かずに立法化しています。国の針路を左右し生活に直結する法律が国民の意思とは別に乱立する現状に、政治は誰のためにあるのか問われます。

一昨年から続くコロナ禍による収入減や物価高騰によって、私たちの生活に厳しさがのしかかります。スキーや旅行に行くことは、忙しい日常をつかの間離れて、人間らしい健康で文化的な生活を送るために必要なことのはずですが、長時間労働に追われて思うように楽しむことができません。すべての人が余暇を謳歌してスポーツを楽しむことのできるの、当然の権利のはずです。

2022-23シーズンもコロナ禍や多忙、地球環境に影響与えている気候変動による雪不足もあり、前年度同様に数多くの行事は組めませんでした。わずかに実施できた行事では、貴重な交流や活動ができました。今は厳しい条件の中にありますが、平和と健康、スキーを愛する埼玉スキー協と1 D a y s は、来る2023-24シーズンにどういう活動ができるのかみんなで考えていきましょう。

*** 総 会 次 第 ***

1 = 会長あいさつ

2 = 議長選出

3 = 議案審議

- (1) 活動報告と活動のまとめ
- (2) 会計報告
- (3) 活動指針
- (4) 今期の活動計画と予算の使い方
- (5) 交流と役割分担

4 = 議長解任

5 = 閉会あいさつ

〔1〕 活動経過

2022年10月29日 奥多摩川沿い軽ハイキング
(北村、三宅、坂本、吉田)

2023年 1月15日 日帰りスキー 尾瀬戸倉スキー場
(北村、坂本、芳賀)

2月4～5日 スキー祭典 (坂本、吉田)

〔2〕 活動のまとめ

10月29日、坂本さんの計画で、「奥多摩川沿い軽ハイキング」を4人の参加で実施しました。心臓の病気後に久しぶりに三宅さんも参加して、軍畑駅から御嶽駅まで約3時間のコースをしっかりと歩きました。多摩川の上流部に当たるこのあたりでは、魚釣りやハイキングはもちろんのこと、カヌーにラフティング、ボルダリングといろいろな楽しみ方をしている人たちがいました。

1月15日は尾瀬戸倉スキー場への日帰りスキーです。クラブスキーでは初めて行った老舗のスキー場です。お客さんは戻ってきていますが、混雑というほどではありませんでした。ハイシーズン期にもかかわらず斜面

の雪量は薄いものでした。久しぶりにゲレンデに出た芳賀さんも程なくして勘を取り戻しましたが、翌日は筋肉痛とのことでした。切り替えゾーンでは谷足に立ち、ターンゾーンでは外足荷重というスキー滑走の基礎を重点にして、緩斜面から中斜面、急斜面と滑りまわりました。

2月4日～5日のスキー祭典には、1 Days から4人が申し込んでいたのですが、急にいけない事情が発生して、坂本さんと吉田さんの2人が参加となりました。コロナ禍のため自家用車で現地集合という形態でした。肝心のスキーは、雪質抜群で広大な志賀高原のスキー場を参加者全体で滑りまわったとのことでした。

もう少し、クラブで行くことができれば良かったのですが、それぞれが自分なりの楽しみ方でスキーや健康作りに励みました。

【3】会計決算報告

別紙

【4】活動指針～目指すクラブの方向性～

- ・一人一人の会員が計画や運営に主体的に参加しよう。
- ・技術指導・会員管理・財政管理・行事立案などの役割をみんなで担うクラブにしよう。会員の意志により運営していくクラブにしよう。
- ・年間を通じて、行事の設定や会員相互の親睦や交流を深め、常に新しい仲間を増やすことを追求していこう。
- ・スキー協の「教程技術」をよりどころにして、教程を学び技術を表現できるように、技術向上を追求しよう。
- ・スノースポーツの安全性を徹底し、各地のスキー場を訪ねて様々な形状の斜面や雪質に対応した技術や楽しさを追求しよう。
- ・他のクラブの行事や県スキー協の行事、全国スキー協の行事にも積極的に参加しよう。
- ・働く者がスノースポーツを楽しみ続けられるように、願いや要求を社会に働きかけるクラブになろう。
- ・体力面や財政面も配慮しながら、できるだけ多くの会員が参加できる行事を計画しよう。

【5】2023-24シーズン活動計画

(1) 県・全国スキー協の活動計画

・2月3日(土)～4日(日)スキー祭典

(2) 希望する行事

*オフシーズンも含めて、やりたいことを出し合ってください。

【6】予算の使い方

【7】役割分担

会長：

事務局長：

会計：

クラブを代表する県スキー協理事：